



hida

広報

ひだ

町木



第10号

肥田町
郷づくり委員会
H10.9.1発行

子どもの夢を育てる

「文庫まつり」開く



8月8日は、毎月実施のカンガルークラブと小学生のみなどで、文庫本の貸出しを実施し、今年も、文庫まつりの楽しいイベントに、郷づくり伝承事業部の元持正三さんのご指導

で、牛乳パックの空箱を利用して、回転ひこうき、プラスチックを利用した、手づくりコマを作りました。カンガルーの幼児たちは、お母さんの力を借り、小学生は、おじさんの指導を受けて自ら挑戦し、全員みごとな作品をつくり上げ、屋内で、又戸外に出て存分にたのしい遊びを展開しました。既製のおもちゃの氾濫する今日、特にリサイクル工作によって、科学の知識と

そのおもしろさ子どもなりに気づき、考える力・物をつくり出す力を養い、大人たちも感動する楽しい文庫まつりの行事でした。



地域文庫連絡会より、森茂会長の指定訪問があり、会長自らも子どもたちと共におもちゃ作りに挑戦され、お話もあって、みんな楽しい時間を過ごしました。

郷づくりふれあい事業部
伝承事業部

痴呆症をテーマにした

福祉介護講座を開催

去る6月20日と7月4日の二日間、福祉介護講座を開催しました。多くの方のご参加と熱心なご議論に厚くお礼申し上げます。

福祉部が創設されて二年目、高齢化の中で大きな社会問題となりつつある痴呆症をテーマに、市の協力を得て講座を開催しました。痴呆という病気と予防を学びつつ、身近な痴呆の方への対応まで学習を深めました。誰もがいつでも安心して暮らせる町づくり、これこそ福祉の心であると思います。

そのためには、誰もが自ら自立の気概を持たなければなりませんし、万一の事態の時は、家族、隣人、地域の人が互いに支え合い、社会復帰を支援することが必要だと思えます。

こうした観点から、講座への自発的な参加を強く念じていましたところ、多くの方の参加を得る一方で、他人事と考えている方もおられ、残念な思いも残りました。本当に他

人事なのでしょうが、自問して欲しいと思います。



肥田町福祉部 森田喜久雄

福祉講座に参加して

大村 町子

昨年続き、今年も福祉講座に参加させていただきました。

高齢化社会を迎え、避けては通れない高齢者問題、特に痴呆症の高齢者の介護については課題が多く、家族、地域の中でどのように携わっていかればいいか。痴呆症の予防と対策について、事例をもとに介護する方、介護される方、それぞれの立場にたってみることで考えることができました。そして少しですが、痴呆症について知ることができました。

最近私も、ものを忘れたり、もの覚えが悪くなったりと歳を感じるこの頃ですが、まだまだ長い人生、仕事と趣味をもち健康で楽しい毎日を送っていけるよう心がけたいと思っています。

これからも、みんなで助け合える福祉の町を築いていきたいものです。

痴呆講座を受講して

成宮 好子

「脳がさまざまな原因で損傷を受け、永年にわたり作り上げられた自分の人格が失われてしまう。」それが痴呆という病気です。この講座を受講して、改めて痴呆症の恐ろしさを痛感させられました。

肥田町の皆様のご記憶に新しいかと思いますが、私の舅さんは、亡くなる一年程前に毎日の日課で散歩に行つた途中、帰り道がわからなくなり、当時自治会長様を始め、町内の皆様方には夜分、お疲れの中、町を挙げてご捜査いただくというたいへんな御迷惑をおかけ致しました。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、そのお舅さんは、普段はとてもしつかりした人で、孫の成長を楽しみに、「自分は百歳まで生きる。」と言ひ、毎日、新聞を読み、寝る前には日記をつけ、又、足が弱るからと雨の日も風の日も、散歩に出かける努力の人でした。それでも持病を持っていたこともあり、寝ている時間が長くなると痴呆は進んでいきました。

人生、高齢化の時代、いろいろな問題も出ていますが、やはり元気で長生きしたいものです。そのためには、この講座で勉強したことを頭の片隅におき、生涯学習と言われる様に、何か趣味や生きがいをもって、又、健康第一に日々暮らしていくことが、一番大事な事と思ひます。又、痴呆も軽度うちに止めるように放置せず、福祉センターに相談したり、デイサービスを利用することもお教えいただき、身近な問題であるだけにとてもよい勉強させていただきました。

風 緑

生まれ故郷・肥田。私の人生でこれ程懐かしい・美しい、そして素晴らしい所はない。肥田を離れた後、半世紀程の歳月が流れる。心の片隅でいつも想いつづける肥田、どっしりとした伝統の重みに生きつづける肥田、宇曾川を切り離して語る事は出来ない。我々の先祖様はその流れと共に生き、豊かな美田を作られ、肥田で生まれた者は、皆その恩恵に浴して育ってきた。(琵琶湖にそそぐ二百余りの河で、唯一いかなる干天と言えども水が枯れない不思議な河・宇曾川。村の鎮守の神様が二柱、子供達を守るお地蔵様も二つ、古くから上町・登り町と、町名で呼び合い、全国でもあまり例がないと思われる不思議な村落・肥田村。それだけに想い出も又多い。)子供の頃、高橋の袂より流れに沿って歩く時、又蔵と呼ばれた地名の島、道場屋敷なる地名に我家の土地があったが、鬱蒼とした竹藪、竹世に覆われた細い道、岩を噛む激流の音、人に出会わないこの付近は、昼間でも子供の私は怖かった。私自身、言うなれば肥田の秘境と思っていた。しかし、村を水魔から守るための拡張工事で、先人の遺跡は、跡形もなくコンクリートに覆い尽くされた。高橋の下を流れる清流にしな垂れた竹笹、自然の営みの美しさはもう見る事は出来ない。幻の肥田城、唯一の歴史を秘める崇徳寺、戦国の世を語りかける若むすお墓。静かな佇まいの釣鐘堂、現住職と竹馬の友の私は、よくこの庭に遊んだ。先日、招きで何十年振りに訪れ啞然となった。かつては山門を一步踏み入れれば静けさの中に長い歴史を偲ばせる懐古情緒あふれる庭園であった。すべて時の流れと共に去って行った寂しい肥田の詩であるかもしれない。時折帰れば肥田の人々の情愛と美しく懐かしい町並みは、豊かな情感

を誘い、安らぎと生きる楽しさを与えてくれ、生まれた肥田に帰ってきたという喜びがこみあげてくる。

泉大津市在住 伊関 正義
(伊関貞夫氏 長兄)

夏休みラジオ体操はじまる

ことしも、子ども会では、三十日間の計画で、早起きラジオ体操が続けられています。



この期間に合わせて、郷づくり委員会ではまちの子ども達に、健康な生活と「あいさつ運動」を奨励してきました。これからも、家庭に町中に、あいさつが満ちる明るい郷づくりと共に努めたいものです。

子どもの書写力の向上をねがって

成宮 伊蔵

整った文字書写をねがい、学年相応の課題を設定して、本年も硬筆による習字教室の開設を試みました。

①大きく書いて字形を正しく。②文字の大きさと中心をそろえる。③「偏」と「旁」による結体法。等々を取り入れました。多少なりとも今後の書写に活かされるように願っています。



「ふるさと夏まつり」

盛會裡に終わる!

お盆の8月15日、「第二十二回肥田町ふるさと夏まつり」が開催されました。幸い天候にも恵まれ、町民の皆様、多数のご参加を頂き有難うございました。各種団体や自治会の多彩な模擬店が、賑やかな夏まつりを更に華やかに盛り立ててくれました。



当日のゲスト、コマドリクラブ演芸ショーが始まり、午後8時頃になるとショーも人も最高潮に達し、プロの歌あり奇術あり、腹話術あり、更に踊りまです。一時間三十分の予定時間をオーバーする熱演ぶりに、皆様には大いに楽しんで頂けたと思っております。又、小さいお子さん達には、「まんが日本昔話」のビデオプロデクターを市立図書館から、お借りして大型画面で見て頂きました。更にピンゲームや福引等で祭をいっそう盛り上げて頂きました。夏まつりの目的としています。地蔵盆の時期と同時に開催し、肥田町の各種団体が互いに協力して演芸や模擬店を主体としたまつりを開催し、子供から老人まで全町民がごぞつて楽しむ機会を設け、相互の親睦と融和を深めることが出来たと思います。

まつりの準備や後かたづけには自治会、各種団体等の役員さんには大変お疲れ様でした。皆様のお陰をもちまして無事に終える事が出来、感謝しております。今後とも夏まつりや地蔵盆がこの様な町民全体のふれあいの場として、ますます充実したものになりますよう願っています。夏まつりのお礼とさせていただきます。

文教部長 藤野 眞理

大津井川の「川掘り」実施

7月12日、恒例の大津



井川・新川・流川等の川掘りが行われた。中でも、大津井川は大昔からわが町の、生活用水、田用水の導入河川として、重要な役割を果たし、毎年この時期には、町内の最大

行事の一つとして「川掘り」が続けられています。平成3年度には、大津井川のコンクリート「側壁」「川底打ち」、約一四〇〇メートル、外川、約七〇〇メートルの工事が実施され、作業も効率化されました。今後とも町民皆様の深いご理解とご協力をお願いいたします。

環境部長 藤野 一成

「中国健康体操始まる!」

今年も中国健康体操が開始されました。講師は藤野英子氏で、日時は、原則として、第2・第4土曜日で午後1時より、肥田公民館で行われます。ゆるやかに、のびのびと柔軟な運動で、心身共に爽快で健康保持に最適です。多くのおみなさんの参加をお待ちしています。

お誕生おめでとう

なまえ 生年月日 父の名
尋也ちゃん H10・4・20

ご結婚おめでとう

伊関正人さん 美弥子さん(平10・6・4)
大村尚子さん 大村嘉孝氏(二女)

彦根市開出今町